

消防研究所を部局化

来年度から 大規模火災に対応

消防庁

消防庁は、同庁への統合・吸収方針が決まっていた独立行政法人「消防研究所」（東京都三鷹市）について、06年度からこれに代わり大規模火災な

ど緊急事態に対応する組織として同庁内に一部局を設ける方針を固めた。部局化に伴う人員増加は、現在の消防庁の定員とは別枠で06年度の概算要求に盛り込む考え。

同研究所はもと消防庁の研究機関だったが、政府の行政改革の一環として01年に独法化された。その後、独法職員の非公務員化を検討してきた政府が04年12月、同研究所は、石油タンク火災など大規模火災で消火活動を指揮するなど、危機管理の際に公務員である現場の消防署員との緊密な連携が必要なため、非公務員化を断念。規模を縮小したうえで消防庁に再び統合・吸収することが決まっていた。同研究所職員（55人）は移行に伴い、5割をめぐりに削減することが固まっている。

【堀井恵里子】

毎日新聞社の許諾を得てこの記事を掲載しています。
この記事の著作権は毎日新聞社に属しています。
毎日新聞社に無断で転載することを禁止します。